

IZUMIKAI

ALUMNI ASSOCIATION NEWSLETTER

DEPARTMENT OF ARCHITECTURE

TOYO UNIVERSITY

2025 / No. 40



ALUMNI ASSOCIATION NEWSLETTER
DEPARTMENT OF ARCHITECTURE
TOYO UNIVERSITY
2025 No.40

CONTENTS

04	:	教授就任の挨拶[伊藤 暁]
07	:	教授就任の挨拶[李 文聰]
10	:	挨拶
11	:	学生便り
12	:	卒業論文[学科賞・泉会賞]
13	:	卒業設計[学科賞・泉会賞]
14	:	バスツアー
15	:	連続講演会
16	:	支部便り[神奈川県]
17	:	同窓便り
19	:	活動計画
20	:	活動報告
21	:	組織図
22	:	広告



教授就任にあたって

建築学科教授 伊藤 暁

SATORU ITO

2025 年 4 月に教授に昇任しました。東洋大学に着任したのが 2017 年、あっという間に 9 年目となりました。先日は研究室 OB 同士の結婚式もあり、時間の早さに驚くばかりです。あっという間と言いつつも、この 9 年間の間には様々な出来事がありました。

2020 年からのコロナ禍では、リモートでの授業を余儀なくされ、教員も学生も、多くの機会を奪われ、また、多くの知見を手に入れました。コロナ以前・以降という分類はあまりにも単純ですが、それでも多感な時期をコロナ禍で過ごした学生たちの様子は、以前とは異なるようにも見えます。毎年学生を送り出し、また新たな学生を迎える教員という仕事は、同じことが繰り返されるようでありながら、どんどんと変化していく社会情勢に揉まれているものであることを痛感する毎日です。

考えてみれば、私が学生時代を過ごした 1990 年代後半と現在では、社会の様相は大きく異なります。私が大学に入学した 1996 年はバブル崩壊の影響が社会に出始めた頃で、入学時のガイダンスで、開口一番に「残念ながら、あなたたちは就職できません」と言われた驚きは今でもよく覚えています。それから 30 年余りが経過し

ましたが、失われた 20 年、30 年と、いつまで経っても失われたままの社会で人生を過ごしてきました。入学時のガイダンスで言われた言葉は現実となり、2002 年の大学院修了時は就職氷河期。ゼネコンや組織設計事務所の求人は皆無に近い状況でした。なんとか aat+ ヨコミゾマコト建築設計事務所に入社し、社会人生活をスタートさせることになります。2007 年に自身の設計事務所を設立し、さてここから、と気合を入れた途端に 2008 年のリーマンショック、2011 年には東日本大震災が起これ、社会の中によすがを見出せないまま、日々を過ごしてきました。社会から跳ね返されるような経験を積み重ねてきたので、「社会を信頼する」、あるいは「社会に対して何かを期待する」ということを、無意識的に避けてきたような気がしています。一方で、「建築は社会的な存在である」というテーゼと向き合うことは避けられず、期待できず、信頼できない社会という相手と、そんな相手に向かって自分

が建築を設計するという行為の矛盾をどのようにバランスさせるのか、という問いが常に自分の中にありました。こんな悩みに道程を示してくれたのが、地方での仕事でした。私は独立後、不思議なご縁で様々な地方で設計の機会を頂いてきました。当時はまだ建築の主戦場は都市部にあり、地方や田舎には、建築家の出番はハコモノ的な公共施設くらいだと認識されていた時代です。しかしそんな社会の認識とは裏腹に、私にとって地方での設計活動は、様々な気づきを与えてくれるものとなりました。特に徳島県の神山町は、とても大きな経験を与えてくれた場所の一つです。【写真 1. えんがわオフィス】

徳島県神山町は、徳島市内から車で1時間弱の距離にある中山間地域の町で、人口減少、過疎化、少子高齢化など、地方特有の問題を全て持ち合わせているような町です。リーマンショックだ何だという以前に、日本の近代化・都市化から取り残されたような場所で、都市的な価値観で見ると、大きな特徴も魅力もない、山奥の町としか認識できません。消滅可能性自治体などという言葉が流布したこともあり、町自体がなくなってしまうような印象を持たれたこともあった場所です。しかし、私が神山町を訪れて目にしたのは、とても楽しそうに暮



写真 1. えんがわオフィス

らす大勢の人たちでした。なぜこんな山奥に楽しそうな人たちがたくさんいるのか、最初はそれがとても不思議でしたが、町に通い続けているうちに、町にある様々な豊かさに気づくようになりました。その豊かさの根源は何なのかと目を凝らしてみると、それらはまさに「近代化」がうまく取り扱えず、取りこぼしてきたものだということに思い至ります。

そこで気づいたのは、この世には「近代」という尺度ではうまく測ることができないが故に、価値化されていない、膨大で豊潤な世界が広がっているのだ、ということでした。

こうした豊かさを建築設計の現代的な議題として引き寄せることができれば、建築の可能性をもっと押し広げられるのではないかと。こんな仮説が、私の研究や教育、そして実務の大きなモチベーションになっています。もちろんそれは、一朝一夕に実現するものではありません。派手なイノベーションのようなものとは無縁な、小さく地味な成果にしかつながらないかもしれない。けれども、その積み重ねにこそ価値を見出したい。そんな気持ちで日々の業務に取り組んでいます。

学生たちも、こうした価値には敏感です。しかし同時に、この難しく、大きな課題を前に、どこから手をつけていいのか分からずに困惑しているのも事実です。そこで、私の研究室では「小さくとも手をつけやすいところからやってみよう」、ということで、これまで中山間地域の調査や、木材産業の製材過程で生じる未利用小径端材を活用した小屋の設計、古い蔵の改修、グリーン材を活用したモニュメントの制作などに取り組んできました【写真 2. 筑西の蔵】【写真 3. 植樹祭ゲート】。これらはいずれも、いわゆる「近代化」の過程では見過ごされてき

たものを対象にした取組みです。例えば未利用小径端材を活用した小屋の設計では、小断面、長さ900mmという端材ならではの材の特性を活かし、トラスと短ス



写真 2. 筑西の蔵



写真 3. 植樹祭ゲート



写真 4. 軽井沢の小屋

パンのラーメン架構を複合させた架構を考案しました。施工も学生たちの手で行い、複雑な仕口加工など、高度な技術を必要としない接合方法を選定に設計を行いました。【写真 4. 軽井沢の小屋】

このプロジェクトでは本学の高岩裕也先生にもご協力いただき、材の破壊実験なども行うことができました。実際に具体的な物質と向き合い、材料が壊れる様子を目の当たりにしながらの設計は、学生たちにとって、とても刺激のかつりアリティを感じられる経験になったのではないかと思います。通常であれば構造材はおろか、仕上げ材にすらならず、砕いてチップにするしかない材料を用いて組み立てられた架構は、とても繊細で力強いものになりました。この成果は日本建築学会や World Conference on Timber Engineering などでも発表を行い、設計実務とアカデミックの接続を経験できたことも、大きな収穫でした。

建築の世界はとても大きい歴史的・地理的な広がりを持っており、いわゆる「建築学」が取り扱いきれていない範囲も広大です。西洋中心的に構築されてきた近代という時代が様々な限界に直面し、多様化した世界の中で画一的な指針が共有しにくくなった現代に建築を学ぶということは、これまで見過ごされてきた荒野に一步を踏み出す胆力と、そこで出会ったものを受け止める洞察力、そしてそれらを現代的に組み立て直す構築力などともあるのだと言っても過言ではないでしょう。

荊の道ではありますが、これからも学生たちと共に、この難題に取り組んでいき、少しでも学問の世界に貢献できればと思っています。





教授就任にあたって

建築学科教授 李文聰

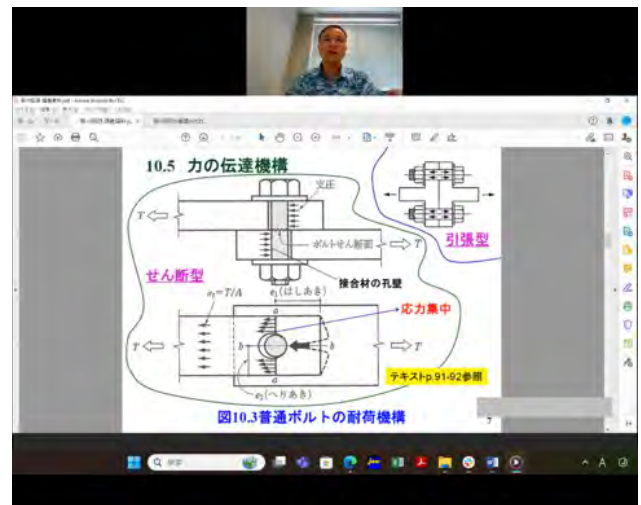
WENCONG LI

2025年4月に教授に昇任しました。2018年4月1日付けで、私は准教授として東洋大学理工学部建築学科に着任して7年が経過し、この7年間で得た経験は、私にとって何ものにも代えがたい財産です。この機会に私の気持ちと印象に残っていることについて書いてみたいと思います。その前に、ご指導いただいた皆さま、支えてくださった皆さま、および関わってくださった全ての方に厚くお礼申し上げます。

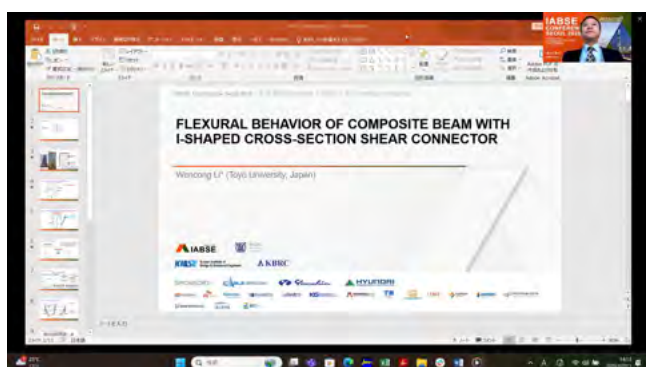
東洋大学に初めて来たとき、私は鶴ヶ島駅から新西門まで歩き、こもれびの道を通り、学習エリアに到着しました。この道の両側は森のように静かで、私にリラックスした心地よい気分を与えました。毎日仕事を始める前にこのような気分でいられるのは幸せなことです。

東洋大学理工学部建築学科の准教授を務めた7年間で、私にとって最も印象に残っているのは、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) のパンデミックを経験したことです。2020年4月に、私は東洋大学建築学科の1年生の学年担任になり、新型コロナウイルス感染症の影響により、その年の建築学科新入生ガイダンスは初めて対面ではない形式で実施されました。その後の新学期の授業方法も従来の対面形式で実施できなくなり、対面授業からオンライン授業に変わりました。その際、多くの教員はしばらくの間、

適応に苦労しました。本当に新型コロナウイルスの流行の影響で、全世界が混乱状態にあると実感しました。さて、私はコロナ禍により、新入生ガイダンスの非対面実施およびオンライン授業を経験しました。オンライン授業にはメリットとデメリットがあります。例えば、



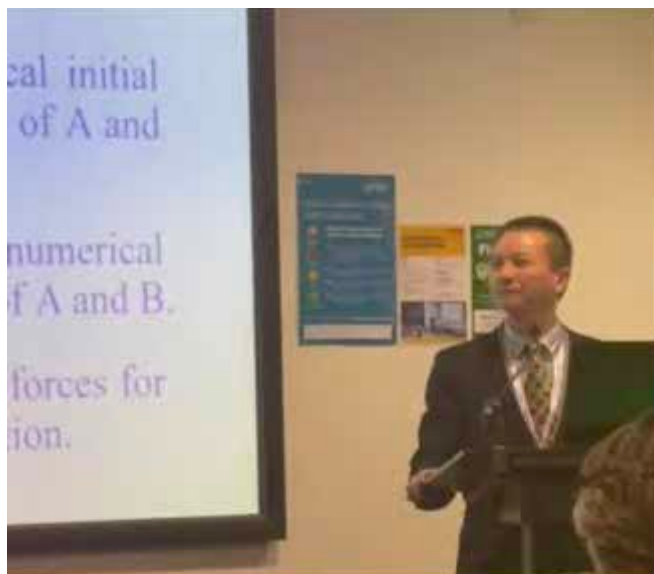
オンライン講義の様子



コロナ時期オンライン国際論文発表の様子

通学の必要がなく、自宅や好きな場所で授業を受けられること、通学定期代や交通費がかからないことや留学生でも海外で学校の授業を受けられることなどのメリットがあります。一方で、インターネット回線の状況によっては、授業が中断したり、映像や音声途切れたりする場合があること、直接的なコミュニケーションが取りにくいこと、人間関係を築きにくい場合があること、学生の表情や反応を直接確認することが難しいことやパソコンやタブレットの操作又はソフトウェアの操作に慣れていないと、授業に参加するのが難しい場合があることなどのデメリットもあります。

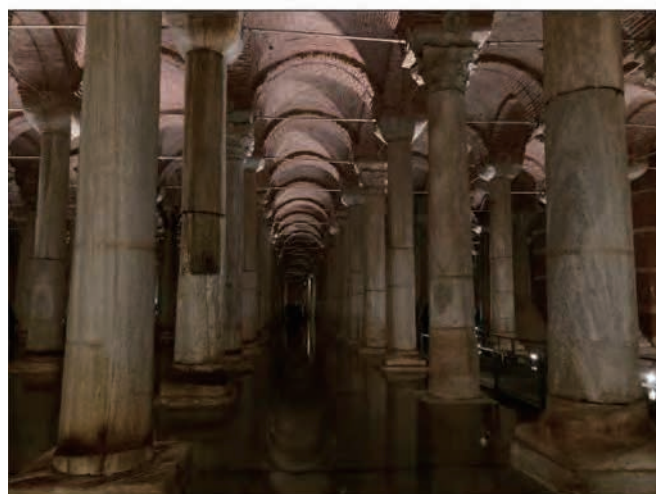
世界的に超高層建築物および建造物の高さ・規模・



国際学会（イギリス）質疑応答の様子



アヤソフィアの視察と
内部ドーム構造の調査



地下宮殿（イスタンブール）の柱群の視察・調査



ザ・シャードの視察と
柱の調査

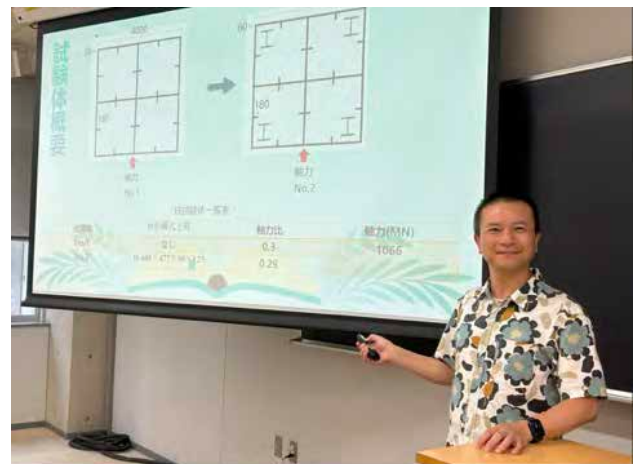
形は続々更新し、時代のニーズに応じて、優れた耐震性能・耐風圧性能・耐テロ性能を有する新しい構造部材が要求されている。私は建築構造を専門としており、特に次世代の超高層建築物又は超々高層建築物のメガフレームに適用でき、更に巨大地震・強風に耐えられるメ

が部材の開発に力を入れており、大断面を有する部材に「CFT 式メガ主筋」と言う要素を設置することを提案しました。なお、「CFT 式メガ主筋」は巨大な主筋の役割を果たすコンクリート充填鋼管要素というもので、特許として取得済みです。最先端の研究情報を得られ、また研究成果を世界に発信できるため、その上東洋大学のグローバル化に少しでも貢献できればと願って、可能な限り、年に一回国際学会に参加するようにしています。但し、私は International Association for Bridge and Structural Engineering(略称 IABSE)というプラットフォームを通して研究成果を世界に発信しております。IABSE は、国際構造工学会と言い、1929 年に設立され、土木と建築の両分野を包含する学会としては結構歴史のある学会です。国際会議の期間中の空き時間或いは会議前後に、私はその国の歴史的建築物や建造物又はその国の代表的な超高層建築物や超々高層建築物を視察や調査し、卒業研究や講義のための資料を収集します。

私の研究室には比較的中国人の留学生が多いです。彼達にとって日本語が母国語ではないため、卒業研究中間発表、卒業研究最終発表会および学会発表がある時は、学生に発表内容を指導するのにもっとエネルギーを費やす必要があると感じます。一部の留学生によっては、発表の原稿を一文一文丁寧に指導しなければならないことや日本語発音を指導することもあります。また、ゼミは、大変な面がありますが、楽しさもあります。例えば、研究の楽しさ、研究を通して得た新たな発見などです。また、あまり頑張らなかった学生の卒業研究の指導などがありますが、これらは将来の私達にとって貴重な思い出となるでしょう。

この度皆様のご支援のおかげで東洋大学理工学部建築学科教授に昇任することができました。心より感謝申し上げます。全力を尽くして更なる建築構造分野研究に精進いたす所存でございます。浅学の身ではございますが、今後とも何とぞ倍旧のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、私は東洋大学の学生、東洋大学建築学科、学術界、東洋大学の国際化に少しでも貢献できればと思っています。



学生の発表内容に関する指導

泉会役員挨拶



堀口 芳隆
YOSHITAKA HORIGUCHI

18期
株式会社 交建設計

会員の皆様には、日頃より泉会の活動にご賛同、ご協力賜り感謝申し上げます。昨年度は前年より準備を進めておりましたバスツアーをようやく再開することができました。バスは満席、ご参加いただいた学生の皆さんより好評をいただきました。ご同行いただきました岡本先生に感謝申し上げます。ツアーの詳細は本号に掲載されておりますので是非ご覧ください。

今年度の主な活動は、昨年度に続きバスツアーの開催、就職活動の支援、HP リニューアルを計画しております。バスツアーについては、千葉方面を候補に計画中です。ご期待下さい。また、学科にもご協力いただきながら HP リニューアルを進めておりますが、本年度中に1期リニューアル完了を目指したいと考えております。

従来、泉会の在校生支援活動のメインでありま

す「合同業界研究セミナー」（会社説明会）ですが、昨年度は、昨今の実情を考慮し、これまでより時期を早めて開催いたしました。学生の参加者がほとんどいないと言う、これまでにない事態が起きました。ご参加いただきました企業の皆さんには、多変なご迷惑をお掛けいたしました。お詫び申し上げます。今年度の開催にあたりましては、昨年度の反省を踏まえ、学生の就職活動の動向を捉え、また学科との連携をより図り、少し形を変え計画しております。

コロナ禍が明け、社会のを取り巻く環境も変化し、学生の思考や行動の傾向にも変化が見られるようです。同窓会の役割も一度見つめ直す時期かもしれません。今後とも会員の皆様には、泉会の継続、発展へのご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

新任教員挨拶



柏 一凡
BAI YIFAN

建築学科助教

新任のご挨拶

今年度より建築学科助教として着任いたしました、柏 一凡（ハク イツハン）と申します。

中国出身で、留学生として来日し、東洋大学大学院修士課程を修了後、博士後期課程に進学し、建築環境工学を専門として研究を続けてまいりました。

主な研究テーマは2つあります。1つ目は、室内に侵入・滞留する粒子状汚染物質の分布特性を明らかにし、快適かつ健康的な居住空間を実現するための制御手法を検討すること。もう1つ

は、近年注目されている室内のマイクロプラスチックに関する実態調査であり、地域や建物の用途による分布・成分の違いを分析し、室内空気質への影響を探究しています。

現代人が多くの時間を過ごす室内環境の質向上を目指し、教育・研究に励んでまいります。ご指導のほどよろしくお願いいたします。

退任教員挨拶



崔 ナレ
CHOI NARAE

助教

退任のご挨拶

2025年3月31日をもって、東洋大学理工学部建築学科を退職し、このたび大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻建築工学部門に准教授として新たな場所で研究・教育活動をスタートさせました。東洋大学では2年間という短い期間でしたが、教育・研究ともに充実した日々を過ごし、貴重な経験となりました。郊外の静かで落ち着いたキャンパスという恵まれた環境の中で、朝の新鮮な空気を吸いながら通る、自然あふれる「こもれびの道」の中で高まる気持ちは今も心に残っています。

専門は建築環境工学ですが、「建築製図基礎演習Ⅰ・Ⅱ」を担当したことで、学生の時に学んだ建築そ

のものと改めて向き合う機会を得ることができました。社会人経験やこれまでの研究活動で得た建築知識から対峙する製図は、より広い視野を持って自分の研究や教育に取り組んでいきたいという思いが強くなりました。

日々温かく接してくださった教職員の皆様には心より感謝申し上げます。今後は東洋大学での経験を活かし、大阪大学でも教育と研究に一層励み、人々がより健康で快適に暮らせる建築空間の実現に貢献したいと考えております。

最後になりますが、泉会のさらなるご発展と、東洋大学理工学部建築学科の皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

学生便り



鍋谷 修斗

SYUTO NABEYA

東洋大学建築学科
3年

「そのときできることを」

大学に入学してから3年がたち、必修の設計課題が終了した。2年春学期から始まった設計課題は私の大学生活に大きな変化をもたらした。初めはどのように努力したらよいのかもわからない状態で、その時にできることをとにかくやり続けるような日々であった。進めていく中で、満足のいく結果であるときもあったが、常に周りを気にしてしまい、本当に自分のやりたいことができていたのかと疑問に思うことがあった。そんな中、私の設計課題に対する考え方が変わるきっかけとなったのが2年次春休みに参加したインターンシップであった。地元新潟のアトリエにて3週間のインターンに参加し、どのようにしてリサーチから建築へと結びつけるのか、どうしたらその土地に存在することがふさわしい建築にすることがで

きるのかを学ぶことができた。インターンを進めていく中で、自分の中でこの敷地にはどうするのが良いのか判断できるほどに理解を深めていく過程が非常に面白かった。3年春の設計課題ではインターンでの学びを踏まえて、リサーチの過程を今まで以上に大切にしてい取り組んだ。その結果、自分の中でやりたいことを突き詰め、納得ができる作品をつくることができた。周囲の評価を聞き入れながらも自分なりに軸を持った設計をすることができるようになったのではないかと考える。これもその時にできることにひたすら取り組んでいたからであり、私はこれがスタートラインなのではないかと感じている。今後は今の段階から先生や先輩に指導していただくことを通じて、さらに自分にとって満足のいくものとなるように今できることを全力で取り組んでいきたい。



樋上 稜太

RYOTA HINOUE

東洋大学建築学科
4年

原点

4年生になった今、ふと「なぜ自分は建築を志したのか」と考えてみた。思い返しても、これといった決定的なきっかけはない。ただ、気づけば自然と建築を目指していた。きっと幼い頃から建築が身近にあったからだと思う。祖父は建築事務所を営んでいて、私の遊び場は製図板が並ぶ事務所や木の香りのする加工場だった。すでに建て替えられてしまったけれど、今でもその風景を思い出す。あの場所が、私にとっての建築の原点だったのかもしれない。成長するにつれ、組織設計事務所で働く父と一緒に建築を見に行くようになり、自然とその世界に惹かれていった。そしてその憧れの延長に、建築学科への進学が

あった。入学後は設計事務所でアルバイトを始め、1人で建築を見に行く機会も増えた。自分の世界が広がっていく感覚が新鮮で、何より楽しかった。その感覚こそが、私が建築を続けたいと思う原動力になっている。2年次から設計課題が始まり、悩みながらも必死に取り組んだ。講評会に選ばれるようにもなったが、いつしかプレッシャーに押され、建築を楽しめなくなっている自分に気づいた。そんなとき、ある先生がかけてくれた。「あなたの案には、ちゃんと人の気配がするね。」その一言で心が軽くなった。誰かの居場所を考えること、それこそが私が建築に惹かれた理由だったと気づいた。これからも原点に立ち返りながら、大好きな建築に向き合っていきたい。

毎日に、感謝と楽しみを

建築を学び始めて、6年目になります。振り返ると、学部1年の春にコロナが流行し、大学生活はオンライン授業と自宅での生活から始まりました。そのような中でも何か行動したいと思い、秋から、建築を専攻するきっかけとなった建築事務所にオープンデスクとして伺ったことを懐かしく感じます。同じ頃、授業を通して現在もお世話になっている高岩裕也准教授と出会いました。先生には現在まで、建築をはじめとして多くのことを学んでいます。また2年生から現在にかけて、コンペやパビリオン製作を通して、大学外の多くの方々と協働する経験を得ました。こうした日々の中で、建築の偉大さや可能性に魅了され、建築を学ぶことが楽しみとなりました。

「好きこそものの上手なれ」という言葉の通り、建築が好きであることが私の学びの原動力になっています。建築を見るために外に出ることも習慣となり、先日初めて国際会議の発表でオーストラリアを訪れました。日本とは異なる文化や国土、環境の中で出会う建築は、どれも新鮮で、初めて尽くしの体験に心を打たれました。

学生生活を通して多くの貴重な経験をさせていただいています。高岩先生をはじめ、研究室の皆さん、協働する仲間たち、給付奨学金を通じて生活を支えてくださる財団法人の皆様、そして何より、私のやりたいことを許し、支えてくれている家族に心から感謝しています。日々の感謝を胸に、これからも楽しみを求めて、建築の探究に取り組んでいきます。



堀江 夏樹

NATSUKI HORIE

東洋大学大学院
建築学専攻2年

卒業論文 学科賞・泉会賞

卒業論文賞

倉橋 里奈

高岩研究室

近代和風建築物の耐震性能にボルト貫接合が及ぼす影響

建築学科同窓会泉会賞優秀賞

永久保温貴

香取研究室

シアキーを有するRC柱に構造用LVL梁を用いた
柱梁接合部の力学的性質に関する実験的研究

建築学科同窓会泉会賞奨励賞

五十嵐 玲

イム研究室

大講義室における感染防止を目的とした冷房時自然換気利用に関する考察

卒業論文賞奨励賞

小野悠貴

田澤研究室

複雑な形状のファサードをもつ支持部材の最適化設計に関する研究

中林亮太

大澤研究室

川越一番街における町づくり規範の適用実態
ー伝統的建造物群保存地区保存計画との関係に着目してー

唐澤大也

田口研究室

地域連携による空き家活用への参与研究
ー麟祥院・葉集軒プロジェクトを対象にー

川上亮太郎

日色研究室

歩行空間における左側通行の優位性に関する研究
ー通行の流れへの影響ー

伊藤龍也

李研究室

H形鋼式主筋を有する正方形田の字断面CFT柱に関する解析的研究
ーH形鋼式主筋有無による影響ー

田島愛理

岡本研究室

ベルーナドーム（西武ドーム）周辺における人の居方に関する研究

空気調和衛生工学会振興賞学生賞

五十嵐玲

イム研究室

大講義室における感染防止を目的とした冷房時自然換気利用に関する考察

卒業設計 学科賞・泉会賞

卒業設計金賞

松島 二葉	工藤研究室	「帰れる」実家と「帰れない」実家
-------	-------	------------------

卒業設計銀賞

石井颯	工藤研究室	追憶の情景 – 故人と湖底に沈んだ村の記憶を刻む葬送空間 –
早坂 楓也	日色研究室	そぞろに紡ぐ – 「居場所」からなる飯坂温泉街の再興 –

卒業設計銅賞

和田優斗	田口研究室	無作為的空間を作為する – 準結晶の規格を用いた低所得者向け住宅 –
蔡語テキ	伊藤研究室	満ちてゆく – 住居における日常と非日常の再考 –

泉会賞

富井大翔	工藤研究室	だんだんを識る宿 – 二地域居住の促進を目的とした体験型宿泊施設の提案 –
------	-------	---------------------------------------

卒業設計賞奨励賞

横澤 柊	日色研究室	「商フ暮ラシ」、街ヲ動カス。 – 「コアキナイ」から考える商店街再生による地域再興 –
大久保一輝	伊藤研究室	逍遙遊泳園地 – としまえん遺構の再構築、練馬城址公園の再解釈 –
小谷恭平	伊藤研究室	美しい建築をめざして
丸山友哉	田口研究室	浮遊する三番線 – 日常解放する駅空間の設計 –

設計製図賞

倉橋里奈	高岩研究室	野部倅平	伊藤研究室
------	-------	------	-------

理工学部グローバルリーダー賞(理工学部長賞)

宮本慶子	田澤研究室	大木海斗	高岩研究室
------	-------	------	-------

校友会学生研究奨励賞

宮本慶子	田澤研究室
------	-------

連続講演会

○講演者

10月24日：長坂常 / スキーマ建築計画

11月21日：門脇耕三 / アソシエイツ

12月19日：秋吉浩気 / VUILD

「How Do You Build?」というテーマに沿って、建築家の長坂常氏、門脇耕三氏、秋吉浩気氏の3名にご講演いただきました。

長坂氏は学生時代に興味のあった事から現在に至るまでの建築作品の説明を通して、素材への向き合い方や建築の持つ正面性に対してのご自身の考えを話してくださいました。コロナ禍に対しての「あの時、いろんなことが止まっていたが故にできた」という考えが建築への姿勢を物語っているようでした。

門脇氏はヴェネチアヴィエンナーレでの展示や、自邸について建築の部分と全体の在り方と合わせて説明してくださいました。「いろんな人の手に触れることが

○モデレーター

伊藤暁

東洋大学建築学科教授

公共建築になり得る」という言葉からも、公共性が規模の大小に限らずに解釈可能であることを感じられました。

秋吉氏は、建築の民主化という主題の元、デジタルツールを使用した建築の普及についてお話ししてくださいました。手段を提供することで、「自分のような人でもやれば出来るんだ」という感覚を多くの方に与え、デザインの背景を面白くする」といった考え方は、建築の新たなつくられ方を物語っていました。

3名の建築家が、自身が学生の頃に何に興味があり影響を受けたのか、学生が大半の講演に合わせて話を持ち寄ってくださいました。

10月24日[木]
17:00-19:00
長坂常
Jo Nagasaka

11月21日[木]
17:00-19:00
門脇耕三
Kartowski Kozo

12月19日[木]
17:00-19:00
秋吉浩気
KOKI ANAYOSHI

東洋大学理工学部建築学科
2024年度通称公開講演会
How Do You Build?

近年、環境問題や国際情勢、経済状況などの大きな変化、あるいは技術革新の進歩などにより、建築の「つくられ方」にさまざまな影響が生じています。また、セルビルドやデジタルファブリケーションなどに注目が高まり、これまで以上に、建築を「いかに建てるか」について考えることの重要性が叫ばれています。具体的な建築の方法と建築の概念を深めて思考することが求められています。今後ますます加速するであろうこうした状況に、様々なアプローチで進む専門家にともに、これからの建築のあり方を考える機会を創出します。

Event：卒業設計
10月19日(金)14:00-17:00 建築設計の発表会を行います。[日程]2024年2月14日～17日
会場：新館 3階 301号室(旧建築設計学科) [問い合わせ先] 東洋大学理工学部建築学科 [Tel:045-239-1415] 担当：伊藤 暁
※内容は変更される場合があります。詳細は学科HPにてご確認ください。

東洋大学



バスツアー

○ルート 宇都宮美術館(岡田新一)→ ちよ蔵広場(隈研吾)→ 那珂川町 馬頭広重美術館(隈研吾)
→ 矢澤酒造店(内藤廣)→ 道の駅 ましこ(原田真宏 + 原田麻魚)

バスツアーはコロナ禍を経て5年ぶりの開催となりました。2024年の行き先は栃木・福島です。学生40名、泉会役員2名、設計アシスタント2名、教員1名の計45名の参加となりました。少しタイトな工程でしたが、足を運んで自分の目で見ることでしか得られないものがあったと思います。

木材の老朽化でメディアに取り上げられることの多かった馬頭広重美術館。竣工は2000年。不燃材を用いることが求められた屋根ルーバーは、木材の本来の質感を損ねずに所定の大径認定を獲得出来るよう実験を重ねて開発された保護塗料だという。竣工後20年以上を経て、近くで見ると確かに胸が痛む木の劣化は四季を繰り返す自然の厳しさを物語る。時を経て獲得した木の渋色は、足元に広がる砂利や背後に控える竹林との相性がとても良い。建築は自然の中で生きているのだから朽ちるのは当然だ。屋根の華奢な木たちによって作られた風景が、「ほらやっぱり」と建築家を非難する声によって霞んでしまう現実が少し悲しい。馬頭広重美術館は、20年以上の時を那須の風土に寄り添いながら、人のように老いることを受け入れている建築なのだ。そんな建築に、寛容さと柔軟

な思考を持って敬意を示す人が少しでもいると良いなと思う。

宇都宮美術館は建物全体の構成に目がいきがちだが、こだわり抜かれたディテールは足を運ばないと気づけなかったことのひとつだ。来館者が踏み入れることがないメンテナンスゾーンや管理動線への区画の作り方からも、設計者のこだわりが感じられる。現地材である大谷石が随所に使用されており、無骨な表情になりがちな石の表面に繊細な加工を施すことで、建物内外の関係を柔らかくし、異素材ともよく調和している。外周に巡らした回廊からは建築を取り囲む樹木の緑が綺麗に切り取られ、その鮮やかさが室内をより一層明るくしていた。

文：工藤希久枝 写真：安田陽(2,3段目), 工藤希久枝(1段目)



支部便り「神泉会」神奈川県支部



河野 洋

HIROSHI KAWANO

3 期

原崎 久人

HISATO HARASAKI

10 期

今年度も、校友会との活動に参加し、第 18 回タウンウォッチングを実施しました。今回は、横浜を離れて太田邦夫先生からの情報により「藤沢宿」を選んでみました。遊行寺を中心に箱根駅伝の遊行寺坂、藤沢宿で最も古い寺の感応寺を散策しました。

- 集合日時：2024 年 09 月 28 日 (土) 15 時 00 分
- 集合場所：JR 東海道線 藤沢駅改札口
- 参加費：無料
- 見学時間：2 時間くらい
- 行程：藤沢駅～遊行通り (庚申堂・江の島弁財天道標)～大鋸橋～ふじさわ宿交流館～遊行寺～遊行寺坂～感応院 (三島神社)～藤沢駅
- 懇親会：藤沢駅近くの大衆酒場楽助にて

総勢 14 名藤沢駅を出発し、ふじさわ宿交流館で東海道五十三次の歴史を学び、遊行寺、及び箱根駅伝の難所の「遊行寺坂」を確認し、感応院へ。



藤沢宿・感応院

三島山と号し真言宗のお寺で本尊は不動明王です。創立は建保 6 年 (1218) と伝えられ藤沢市では最も古い寺の一つです。境内には三島神社があり、建久 4 年 (1193) 源頼朝が富士の裾野で狩りを催した時、旅の厄除けのためにこの地に三島明神を勧請したといわれています。

※本すきま漫遊記 感応院より

さてこの三島明神堂、もともとは源頼朝が鷹狩りをする際に、行程の安穩を祈願して建てたもの。現存する堂は他では見られない極めて特殊な作りをしていて、堂全体を回転させることができ、どこからでもお参りができます。ただ現在は老朽化のためか柵が設けてあり近くまでは入れませんでした。

堂は亀腹基壇の上に載っており、堂の四面は同じ作りになっている。そして四隅の取っ手を押すことで、堂全体が 360° 回転する構造になっています。

2025 年 1 月 5 日 (日) に 7 期の高橋慶継さんが亡くなりました。心よりお悔やみ申し上げます。



同窓便り



池田 暉直
AKINAO IKEDA

52 期
2017 年大学卒業
工藤研究室

渡り鳥のように

現在、私は東北大学都市・建築学専攻の助手をしています。東洋大学で建築を学び始めてから現在に至るまでのことを振り返りたいと思います。

建築の世界へ

学部時代は東洋大学で建築を学びました。大学 1 年時に受けた長澤悟先生の建築概論の講義が刺激的で、本格的に建築に興味を持ち始めたのを覚えています。大学 3 年後期には藤村龍至先生に師事し、住民参加のパブリックミーティングやスタジアムの動員研究などを通して、都市や社会の見方を学びました。藤村先生の東京藝術大学への着任が決まり、大学 4 年からは教育や学校に興味があったこともあり、工藤和美先生に師事します。工藤研では先生が設計した宮城県東松島市にある宮野森小学校でのワークショップや、事務所と連携した実施プロポーザルを通して、施主とのコミュニケーションや実務に対する姿勢を学びました。学部時代は実践的な研究室活動や 2 人の先生が社会に対して働きかける振る舞いを間近で見ることで、建築の持つ社会性を漠然と感じていました。

外に開く

修士では自分の世界を広げたく、筑波大学大学院に進学し、貝島桃代先生の研究室の門を叩きます。貝島研では東日本大震災で被害を受けた石巻市牡鹿半島桃浦集落の復興プログラム「牡鹿漁師学校」の第 9 回目を担当しました。筑波から桃浦に何度も足を運び、漁師さんなど住民の方々と話す自分の暮らす土地の環境に対する感度の高さに驚きます。そうしたやり取りの中から漁業、林業、民俗学などの視点から建築を考えることが多く、建築を外側から捉えてきました。今思うと、修士時代から東北には縁があったのだと思います。また、修士論文では金沢の町家の改修事例を対象に、町家改修に関わる設計者、施工者、職人たちの人的連関と改修デザインとの関係をテーマに執筆しました。

生物建築舎

筑波大学を修了した後、平成から令和に変わる 2019 年 5 月から、藤野高志氏が主宰する「生物建築舎」に入所しました。生物建築舎は私の地元でもある群馬県にあり、懐かしさを感じながら働き始めました。入所してからはこれまで学部・修士で触れてきたこと以上の実務の厳しさを肌で感じなが

らも、人間を取り巻く環境を捉える重要性、設計者だけでなく施工者や施主と建築を創っていくことを学びました。入所 4 年目に藤野氏が東北大学准教授に着任するのを機に、当時のスタッフの中から私が仙台に行くことになり、藤野研の技術補佐員として 2023 年 4 月から東北大学で働き始めます。

アカデミックな場へ

再びアカデミックな場に戻り、今度は東北大学大学院都市・建築学専攻の職員の立場から設計教育の現場を近くで見ることになりました。その一方で、生物建築舎のスタッフとしても実務を行い、二足の草鞋で教育と実務を横断しながら建築に関わりました。教育面では研究室のゼミや設計教育のカリキュラムなどに触れ、実務ではマンションの一室の改修をしました。これは貴重な経験でした。そうこうしているうちに、東北大学の教授である小野田泰明先生から声をかけられ、助手になる機会をいただきました。最初はそんな器ではないと思い断るうともしましたが、藤野氏が背中を押してくれたこともありこの機会を活かそうと思い直し、助手に着任することになりました。

能登の復興

小野田研の助手に着任した後、先生が関わる、2024 年 1 月 1 日に起きた能登半島地震の復興関係の活動をしています。現在は、これまで能登の暮らしを支えてきた被災した民家を奥能登 3 市 3 町で悉皆的に調査し、今後の復興の起点に活用できる建物を抽出しています。口先だけでなくどうすれば復興ができるのかを、現場で起きていることを大事にしながら試行錯誤しています。行政とのやり取り、調査システムの開発、情報の共有方法など地味な裏方の仕事が多いですが、そうした仕立てがないままでは物事は前に進まないのだということを実感しています。

一期一会を大切に

東洋大学から始まり現在に至るまでさまざまな場所を転々としてきました。その時の状況やその中で出会った人とのつながりがこれまでの渡り鳥のような人生になっているように思います。自分の判断にしろ、偶然の結果にしろ、身を置く環境が変わっていくことは楽しい。これからもそうした一期一会を大切に学び続けたいと思います。

同窓便り



篠田 将

Masashi Shinoda

50 期

2017 年博士前期修了
松野研究室

はじめに

現在、AQ Group（旧アキュラホーム）技術研究所で、平屋から 8 階建てまでの木造建築の技術開発に取り組んでいます。加えて、東洋大学で非常勤講師を務めるほか、前職 BX カネシンのウェブ掲載「構造金物相談所」でコラムを執筆し、ときどき耐震診断の仕事もお手伝いしています。

東洋大卒業後、これまでの歩み

大学院修了後、構造設計事務所 KAP に約 3 年間在籍し、多様な構造種別を手掛けました。中でも「木造が最も手間がかかる」という課題意識を抱き、BX カネシン に転じて金物開発に携わります。

ここでは、開発職としてシアプレートなどの製品開発をしました。また、設計とは異なる『いかにシンプルに仕上げつつ、差別化するか』という開発の難しさを味わいました。

開発をする一方、技術営業職として実案件の相談対応やコラム執筆（構造金物相談所）を通して、「本には載らない現場知」を共有し、木造設計者の支援に努めました。

時折、マニアックすぎるくらいはありますが、お

かげさまで月間アクセスは数千件ほどあり、それなりに需要はあり、それに応えられたのではないかな?と思っています。

現在の取り組み

AQ Group では、前職ではビジネスになりにくく着手できなかった技術開発テーマに取り組んでいます。並行して、特許取得後の成果公開として査読付き論文の投稿も視野に入れています。

企業研究者として知財で守りつつ、学術発表を両立させる難しさを痛感していますが、その分やりがいも大きいと感じています。

最後に

振り返ると、興味のままに「木造をもっと楽に、安全に」と歩んできた結果、講義・執筆・研究を横断する現在の働き方に辿り着きました。まだまだ模索しているところではありますが、同窓の皆さまにとっても、「こんなキャリアの形もあるんだ」と参考になれば幸いです。

東洋大学の授業では、建築構造の面白さと魅力を少しでも学生へ伝えることで業界の裾野を広げていきたいと考えています。



KAPでの担当案件



AQ Group 木造技術研究所の試験機



構造金物相談所WEBサイト

2024年度活動報告

2024年度年間活動報告	月	理工学部(建築学科)「泉会」関連行事	泉会行事・会場・業務活動等
	4	■ 新入生オリエンテーション ■ 入学式・・・4/6 ■ 1年生対象の茶話会	■ 新入生オリエンテーション会長祝辞・・・4/3(水)13:00～[2106教室] ■ 準会員費集金及び記念品(三角スケール)贈呈(役員・学内幹事) ■ 茶話会4/19(金)16:30～[川越キャンパス学生食堂]
	5		■ 第1回建築業界ガイダンス(協力:日建学院)・・・5/8(水)18:10～[川越キャンパス2106教室(後日Youtube配信)] ● 本部役員会
	6	■ 学祖祭・・・6/6 ■ 2024年度同窓会連絡・・・6/22(土)	■ 第2回建築業界ガイダンス(協力:日建学院)・・・6/12(水)18:10～川越キャンパス2106教室(後日Youtube配信) ● 幹事会6/15(土)15:00～[4号館4階第2会議室] ■ 2024年度同窓会連絡6/22(土)10:00～[4号館4階第2会議室]
	7		● 本部役員会
	8	■ 夏休み	
	9	■ 9月卒業式・学位記授与式・・・9/14 ■ 秋学期授業開始	■ 終身会費集金作業 ■ 1・2級建築士講座(協力:日建学院) ● 本部役員会
	10		● バスツアー10/19(宇都宮～那珂川町～矢祭町)45名 ■ 第3回建築業界ガイダンス(協力:日建学院)・・・10/25(金)15:00～2106教室、・・・10/26(土)13:00～オンライン(後日Youtube配信)
	11	■ 2024年度ホームカミングデーin川越・・・11/2 ■ こもれび祭・・・11/2・3	● 総会・・・11/2(土)13:30 川越キャンパス4号館4階第1会議室 ■ 建築業界研究セミナー・・・11/16(土)川越キャンパス参加企業56社(学生参加者B3:5名、M1:1名)
	12	■ 冬休み	● 本部役員会
	1	■ 授業再開	
	2	■ 春休み	■ 卒計発表会・卒論発表会・泉会賞選考(準会員支援) ● 本部役員会
	3	■ 卒業式・学位記授与式・・・3/23(日)	■ 卒業式にて会長祝辞、記念品贈呈、泉会賞授与(準会員支援) ■ 準会員終身会費集金作業 ● 本部役員会

2025年度活動計画(案)

2025年度年間活動計画(案)	月	理工学部(建築学科)「泉会」関連行事	泉会行事・会場・業務活動等
	4	■ 新入生オリエンテーション ■ 入学式・・・4/6	■ 新入生オリエンテーション・会長祝辞 ・・・4/2(火)12:00～[2106教室] ■ 準会員費集金及び記念品(三角スケール)贈呈 (役員・学内幹事) ● 本部役員会
	5	■ 1年生対象の茶話会 ■ 2025年度同窓会連絡・・・5/31(土)	■ 茶話会 5/9(金)16:30～・・・川越キャンパス学生食堂 ■ 第1回建築業界ガイダンス(協力:日建学院) 5/14(水)18:15～・・・川越キャンパス[2106教室] 5/24(土)14:30～・・・オンライン(後日Youtube 配信) ■ 第2回建築業界ガイダンス(協力:日建学院) 5/21(水)18:15～・・・川越キャンパス[2106教室] 5/24(土)14:30～・・・オンライン(後日Youtub配信) ■ 2023年度同窓会連絡・・・5/31(土) 10:00～[4号館4階第2会議室] ● 本部役員会
	6	■ 学祖祭・・・6/6	● 本部役員会
	7		● 幹事会・・・7/5(土)15:00～ 川越キャンパス
	8	■ 夏休み	
	9	■ 9月卒業式・学位記授与式・・・9/17 ■ 秋学期授業開始	■ 終身会費集金作業 ■ 1、2級建築士講座(協力:日建学院) ● 本部役員会
	10		■ 第3回建築業界ガイダンス(協力:日建学院)10/中旬 川越キャンパス ● 本部役員会
	11	■ 2025年度ホームカミングデー in川越・・・11/2 ■ こもれび祭・・・11/2・3	■ 総会・・・11/3(月・祝)13:00川越キャンパス ■ 建築業界研究セミナー・・・11/15(土)川越キャンパス ■ バスツアー・・・12/6(土)(候補:千葉方面) ● 本部役員会
	12	■ 冬休み	
	1	■ 授業再開	
	2	■ 春休み	■ 卒計発表会・卒論発表会・泉会賞選考(準会員支援) ● 本部役員会
	3	■ 卒業式・学位記授与式・・・3/23(日)	■ 卒業式にて会長祝辞、記念品贈呈、泉会賞授与 (準会員支援)、準会員終身会費集金作業 ● 本部役員会

役員組織図

議案第3号<泉会>役員組織図

「本部役員」	役職	氏名	担当業務
	会長	堀口 芳隆(18)	総括
	副会長	茂呂 大輔(33)	広報企画
		木元 洋佑(42)	
	大学担当役員	高岩 裕也(49)	
	財務	吉野 広二(27)	
		安田 陽(50)	
	事務局長	中村 純三(9)	

【会長】

堀口 芳隆(20) 交建設計
03-3553-9112

【顧問(歴代会長)】

飯吉 伸一(1, 2) 飯吉建築設計
03-5313-2244
長谷部 浩(3, 4) 雄設計
03-3987-8151
佐藤 博美(5, 6) 佐藤U A設計
0957-74-5116
松崎 吉夫(7, 8) 松崎吉夫建築研究所
03-5995-5777
松本 祐二(9)
03-3940-8027
鈴木 澄夫(10)
03-3647-5745
白旗 定幸(11) マナ建築設計室
0422-28-7068
草野 律子(12) 草野建築設計事務所
049-227-8176
長峰 勝芳(13) 大谷工業
03-3494-3731
鶴田 謙一郎(14) 黒川建設㈱
04-7184-8586
細谷 功(15) スタジオ-4設計
049-266-5036
中山 秀明(16) 中山秀明建築研究所
049-240-2677
寺山 誠(17) 島村工業
048-775-1419
星野 洋介(18) 交建設計
090-9106-4905
中路 孝子(19) 岩堀建設工業
049-225-5111

【支部担当】

勝瀬 義仁 タック
048-474-2727

【支部】

支部長 事務局
■北海道
本間 寿幸(15) 武内 一郎(5)
011-241-9538 011-513-0711
■新潟
理研設計の田中 隆(6) 風間 秀和(31)
025-284-2266 025-284-2266
■茨城
柴田 弘道(1) 奈良 昌樹(32)
0292-21-8111 029-822-4377
■岡山
吉川 仁和(18) 石川 哲郎(16)
086-214-4111 086-284-6816
■福岡
古賀 英雄(3) 井出 昇(8)
092-662-2098 092-626-0737
■徳島
戸出 敏夫(12) 板原 智(19)
0883-22-2225 088-675-2252
■静岡
島村 芳三(14) 植田 竜司(27)
054-273-0713 054-221-3127
■神奈川
河野 洋(3) 原崎 久人(10)
045-251-3796 050-3723-2935
■群馬
空席 関口 敏之(30)
027-352-5168
■山梨
飯窪 功児(8) 三枝 信人(9)
055-283-1157 0553-47-1653

第20期(幹事会メンバー:委任可)

【幹事】(*:非常勤講師)

1期 桑野 進 (桑野デザイン) 03-5936-8011
2期 田畑 貞和 (シー・アイ建築認証機構(株)) 03-6272-4180
3期 上川 勇治 (街並工学研究所) 0492-52-1661
4期 松村 丘 (日本施設管理) 03-5340-5580
6期 小野塚 勉 0480-33-5185
5期 岡崎 勇二 (岡崎工務店) 03-3982-2924
元持 秀人 (自営) 090-1771-0974
7期 坂巻 一男 (建物保全支援機構) 048-729-6970
8期 草野 律子 (草野建築設計) 049-227-8176
9期 中村 純三 (岩堀建設工業) 049-225-5111
10期 橋本 秀世 (橋本秀世建築研究所) 03-3993-2755
小川 任信 (小川任信建築設計) 090-3097-9027
11期 森田 和巳 (森田建築設計室) 049-282-2888
12期 中山 秀明 (中山秀明建築研究所) 049-240-2677
13期 橋本 雅夫 (奥山設備) 090-2563-9368
14期 星野 洋介 (交建設計) 090-9106-4905
15期 小岩井文夫 (エフピーエス・ミヤマ) 03-3639-7603
16期 中路 孝子 (岩堀建設工業) 049-225-5111
17期 松田 孝幸 (バルシップ) 03-3234-3303
18期 高杉 雄一 (高廣建設) 048-266-5618
堀口 芳隆 (交建設計) 03-3553-9112
19期 松岡 正樹 (自営・名古屋) 090-3452-6465
20期 寺井 明彦 (鈴木組) 03-3822-1785
21期 深川 繁久 (JALファシリティー) 03-3747-6435
22期 瀬沼 健二 (大成建設) 03-5625-0250
23期 市川 建治 (埼玉西部環境保全組合) 090-7823-0442
24期 増田 順久 (フジタ) 0429-93-3296
25期 田口 隆 (株式会社 理建設計) 025-284-2266
26期 長谷部 勉* (H.A.S.Market) 03-6801-8777
27期 吉野 広二 (吉野建築造形工房) 049-265-7061
斉藤 宏昭 (足利工業大学) 090-9347-0445
28期 桜井 一郎 (リプラン) 03-3972-0072
松岡 大介 (ボラス暮らし科学研究所) 048-987-9111
29期 野村 哲也 (日本ランドデザイン) 03-3346-2233
池田 麗子 (川越市役所) 049-224-5961
30期 伊藤 良 (パンデミック) 03-5464-8930
田中 伸明* (ATELIER N) 0279-75-7820
31期 深町 仁至 (志本市役所) 048-483-1039
32期 伊藤 麻理* (U A O) 03-3498-3060
馬場 崇容 (日建ハウジングシステム) 03-3268-5862
須貝 重義* (シグアーキデザイン) 03-6459-0108
33期 茂呂 大輔* (スタジオコンボ建築デザイン事務所) 090-4075-7904
34期 菅 学 (ソリトシシステムズ) 0242-73-2738
辰澤 茂和
35期 大矢 晋 (病院システム) 03-5396-3921
36期 神田 剛 (神田剛建築設計事務所) 03-3401-7721

37期 太田 森政 (長谷工アーベスト) 03-5440-5813
38期 大場 奈央 (日本総合研究所) 090-3809-6291
中村 友子 (自営) 090-9155-3184
39期 菅野 知速 (研究生) 090-7689-1174
那賀島大地 (さいたま市役所) 048-829-1111
40期 保里 賢治 (構造計画研究所) 090-5316-8965
森 智香子 (日構シーエスエス) 048-653-2048
41期 新井 真吾 (レオパレス21) 070-2198-4142
42期 寺内 央 (中島工務店) 090-4369-0028
43期 古川 明広 090-4747-6078
氏家 麻里子 (教育施設研究所) 090-7236-1344
44期 吉野 大輔 (さいたま住宅検査センター) 048-621-5111
橋本 文 (大成建設) 080-5553-7529
45期 若山 範一 (Nodstock) 090-7277-5470
滝島 信吾 (大和リース) 080-2023-1140
46期 大山 宗之 (国際航業) 080-6503-6026
柳佳央里青 080-1848-4513
47期 折田 現太 (飛鳥建設) 090-4951-8299
佐藤 豪太 049-239-1414
48期 加能 良祐 (大林組) 080-4291-5432
梓澤 亜美 (昭栄建設) 090-2540-9174
49期 高岩 裕也 (准教授) 049-239-1412
為貝 恵実 (岩堀建設工業) 049-225-5111
50期 安田 陽 (東洋大学アシスタント) 080-1305-8898
篠田 将 (AQ Group) 080-1208-3794
51期 内海 友博 (設計領域) 090-2221-0305
土屋 柚貴 (Open A) 080-5878-6806
52期 柳田 実肅 (サンエイコー東日本) 080-6647-3114
久保 翔平 (大和ハウス工業) 090-2239-5291
53期 鈴木 郁弥 (フォルテック一級建築士事務所) 090-8494-7413
原 慧矢 (ミサワホーム) 080-9389-3997
54期 渡邊 雅大 (渡辺有規建築企画事務所) 090-8082-0043
植竹 淳史 (綜企画設計) 080-4735-5540
57期 川島 一純 (宮本忠長建築設計事務所) 090-7714-8630
平田 凌雅 (ピーツーエアーキテクト) 080-4662-9185
58期 長瀬 笑佳 (宇都宮市役所) 070-4138-1010
張替 景 (DE-SIGN INC.) 080-8428-3594
59期 室岡 和臣 (大学院2年) 090-7714-8630
新山 千尋 (大学院2年)
60期 和田 優斗 (大学院1年) 070-4038-1360
富井 大翔 (創建築設計事務所)

61期(現役4年) / 62期(現役3年) / 63期(現役2年)

【監査】

内田 公夫(17期) 泉建築舎(090-9640-9128)
松田 孝幸(17期) バルシップ(03-3234-3303)

【本部連絡先】

〒350-8585 埼玉県川越市鯉井2100
東洋大学理工学部建築学科「泉会」
049-239-1679 (川越キャンパス同窓会室)

本連絡先は泉会活動以外には使用しません

【連絡方法と幹事の業務】

1. 幹事会及び支部交流会の連絡方法は原則として事務局よりメールまたはFAXで連絡し、出欠の確認をする。
2. 本部役員は受持ちの各期幹事と相互に連絡をとる。
3. 各期の幹事は同期の卒業生への連絡を行う。
4. 各期の幹事は、同期の卒業生の住所等の把握、印刷物の発行の協力、会費の納入状況の把握と徴収の協力を行う。
5. 幹事は会報の「同窓生だより」執筆者を選考し原稿の依頼をする。

広告

日建学院では、泉会ご協力の下 現役東洋大生から卒業生までこれからも全力で応援致します!

現役生へ朗報!!

建築士 学内講座

建築士法改正に合わせて、学内講座も大幅に拡充!!
「泉会」と「東洋大学 建築学科」が主催する
1級・2級建築士講座を、日建学院が特別学費で実施します。

東洋大生 3大特典

- ①資格講座 : 建築士・宅建士など、学生割引きを適用!
- ②建築系書籍 : 建築設計資料・住宅建築 など、学生割引きを適用!
- ③その他 : 講演会・セミナーへの無料招待
学内催事での献本など



卒業生へ朗報!!



東洋大学理工学部建築学科同窓会〈泉会〉提携学費及び講座一覧

Web 講座

Web 学習 の特徴

- 遠隔地や仕事等の理由でなかなか通学できない方でも学習可能。
- 自分のライフスタイルに合わせて学習を進められる。

No	講座名	一般学費(税込)	泉会会員提供学費(税込)
1	1級建築士 学科理論Web講座	330,000 円	165,000 円
2	宅地建物取引士 重点Web講座	110,000 円	88,000 円

通学講座 ※最寄の日建学院で受講できます。

通学講座 (集合型学習) の特徴

- 多人数制なので競争意識が芽生え学習意欲が高まる。
- 決められたスケジュールの中で効率的に学習が進められる。

No	講座名	一般学費(税込)	泉会会員提供学費(税込)
3	1級建築士 学科本科(通学)講座	770,000 円	695,200 円
4	1級建築施工管理技士 学科(通学)講座	330,000 円	256,300 円

【期間】2026年3月31日まで ※学費改定の場合、改定額に準じます。



*画像は全てイメージです。

あなたの「夢」応援します。

日建学院

全国直営115校 最寄校の利用が可能です。
まずはお気軽に川越校までご連絡下さい。

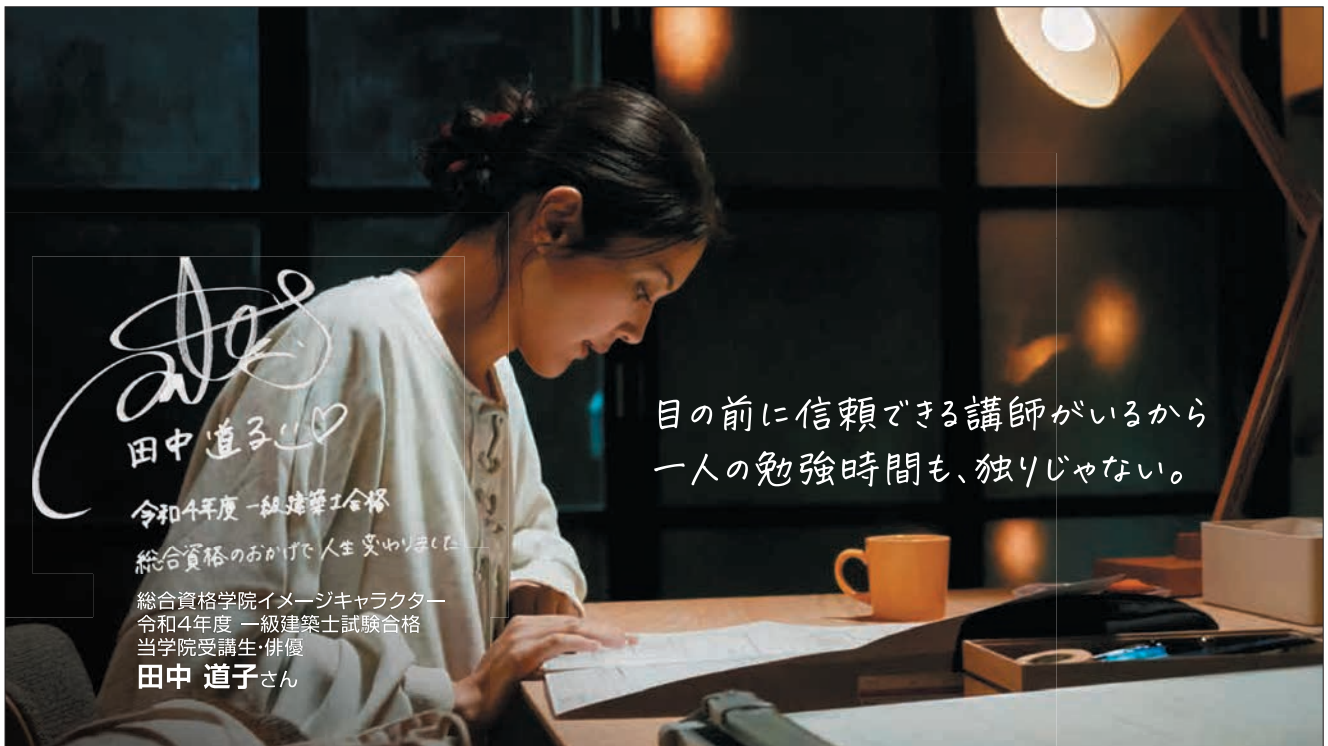
【お申し込み・お問い合わせ】

日建学院 川越校 事務局

〒350-1123 埼玉県川越市脇田本町15-13東上パールビル6F
川越駅西口駅前 TEL: 049-243-3611



ぞうたい合格!

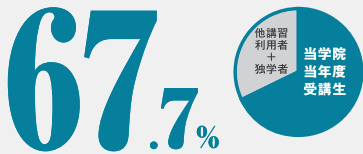


東洋大学卒業・埼玉県

1級建築士 合格実績 No.1

令和6年度 1級建築士 設計製図試験

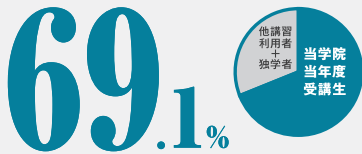
東洋大学卒業合格者占有率



東洋大学卒業合格者 31名中 /
当学院当年度受講生 21名

令和6年度 1級建築士 学科・設計製図試験

埼玉県ストレート合格者占有率



埼玉県ストレート合格者 68名中 /
当学院当年度受講生 47名

令和6年度 1級建築士 設計製図試験

埼玉県合格者占有率



埼玉県合格者 182名中 /
当学院当年度受講生 107名

*学科・制図ストレート合格者とは、令和6年度1級建築士学科試験に合格し、令和6年度1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。 ※当学院のNo.1に関する表示は、公正取引委員会(No.1表示に関する実態調査報告書)に基づき掲載しております。 ※卒業学校別合格者数・都道府県ストレート合格者数・都道府県合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表に基づきます。 ※総合資格学院の合格者数には、「2級建築士」等も受験資格として申し込まれた方も含まれている可能性があります。 ※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役所提供者、過去受講生は一切含まれておりません。(令和7年1月15日現在)

合格実績No.1スクールで令和8年度の合格をつかもう!!

令和8年度 1・2級 建築士講座 受講生募集中

▼ 詳細は各最寄校まで! お気軽にお問合せ下さい ▼

無料 体験入学 受付中



総合資格学院

川越校

埼玉県川越市船田本町10-16 BOビル1F
TEL:049-291-5211

鶴ヶ島駅前校

埼玉県川越市小堤911-1 郡慶ビル3F
TEL:049-272-7581

「スクールサイト」 www.shikaku.co.jp

「コーポレートサイト」 www.sogoshikaku.co.jp

総合資格
検索



X ⇒ @shikaku_sogo
LINE ⇒ 「総合資格学院」
Instagram ⇒ @sogoshikaku_official

開講
講座

1級・2級 建築士/建築・土木・管工事施工管理技士/
建築設備士/宅建士/賃貸不動産経営管理士/
インテリアコーディネーター

無料
進呈

ご希望の書籍1冊
プレゼント



お申込は
コチラ▶





ALUMNI ASSOCIATION NEWSLETTER
DEPARTMENT OF ARCHITECTURE
TOYO UNIVERSITY
2025 No.40